



「十五の春」 - 祝 中学校卒業



【9年間の学びの頂上に到着】

令和4年3月、芳野中学校の11人の3年生は「十五の春」を迎えました。4日には卒業証書授与式に臨み、これまでの思い出と芳野中学校の卒業生としての誇り、そして4月からの夢を胸に抱いて母校を巣立ちました。

「十五の春」は、芳野小中一貫校ではとても大切にしている言葉です。本一貫校では、これを「ふるさと『芳野』を誇りに思い、夢に向かって自立する」姿として共通目標としています。11人の卒業生は「十五の春」の姿になり、学び舎を巣立っていきました。

先輩に“憧れて”育ってきた子どもたちが 後輩から“憧れられる”存在となって



【芳野のために力を発揮】



【憧れられる存在に成長】

卒業生は、神楽等芳野の文化や熊本地震被災地との百年桜の交流等小学校での学びを素地として、中学校生活3年間を過ごしました。中学校では自分たちの芳野をよりよくしようという意識を高め、「芳野学」をはじめとして勉学に励みました。昨年度までは、先輩の姿に憧れながら成長してきました。中体連や金峰山清掃ボランティア活動では頼もしい姿を見せてくれました。

3年時には集大成として充実した毎日を送りました。安全な登下校を目指した転倒防止注意喚起の看板を設置しました。また、芳野に人を呼び込みたいという願いから前年度に引き続き「芳野コスモス園プロジェクト」に取り組みました。より実践的な地域貢献として、東門寺菅原神社の絵馬修復活動に取り組んでいる姿が紹介された新聞記事は記憶に新しいところです。その姿は、小学1年生から中学2年生までの子どもたちに「憧れられる」存在でした。

“十八の春”へ向けて

自分たちの暮らす芳野を誇りに思い、自分の抱く夢に向かって自立する姿は、「豊かな人生とよりよい社会の創造」へ向けて「自ら考え主体的に行動」する力を子どもたちが自らに育んできた証しです。4月からの生活でも、9年間で身に着けた力を生かしつつ成長していくことを祈らねばなりません。

今年4月1日、改正民法が施行されます。そのため、卒業生は3年後の18歳になったときに成人を迎えます。これからの3年間は、大人になる「十八の春」を意識して過ごすこととなります。それぞれの道を肩の力を抜いて、それでいて有意義に歩み続けてください。

6年生 中学校を見学

6年生も卒業そして進学が目前です。そこで本年度も中学の見学を実施しました。

6年生は2班に分かれて施設や授業を見学しました。これまで何度も訪れていた芳野中ですが、6年生からは心地のよい緊張感が伝わってきました。



【オンライン授業の様子も見学】

中学ではより専門性の高い授業となります。少しずつ慣れて学んでほしいと思います。

【芳野小中一貫校だより「肥後三山」】本年度は五回発行予定でしたが、各学校だよりの記事と重複する内容もありますが、小中一貫教育の観点からお伝えします。